

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-260	13-072	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol and smoking and subsequent risk of prostate cancer in Japanese men: the Japan Public Health Center-based prospective study. 日本人における飲酒・喫煙とその後の前立腺がん死亡：JPHCによる前向き研究		
執筆者		
Sawada N, Inoue M, Iwasaki M, Sasazuki S, Yamaji T, Shimazu T, Tsugane S.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2014 Feb 15;134(4):971-8. doi: 10.1002/ijc.28423.		
キーワード		PMID
アルコール、喫煙、前向き研究、前立腺がん		23929133
要 旨		
目的： 飲酒と喫煙は前立腺がんの危険因子として確立されてはいないが、ヒトにおける他のがんの重要かつ予防可能な危険因子である。飲酒者や喫煙者はがん検診を受けない傾向があるかもしれない、結果として真の関連が見えにくくなっている可能性がある。本研究では、日本人男性の大規模前向きコホートをを用いて、飲酒・喫煙と前立腺がんとの関連を、がんのステージ別、自覚症状の有無別に検討した。		
方法： 全国の保健所などを基にした「多目的コホート研究」(JPHC、the Japan Public Health Center-based prospective study) のコホート I、II が確立されたのは、それぞれ 1990 年、1993 年である。本研究の対象は、ベースラインで質問票 (飲酒・喫煙習慣に関するものを含む) に回答し、その後 2010 年の終わりまで追跡できた 40-69 歳の男性 48,218 人である。		
結果： 16 年間の追跡期間中に 913 人の男性が新たに前立腺がんと診断され、そのうち 248 人が進行がん、635 人が臓器限局性がん、30 人がステージ不定のがんであった。飲酒量が増すにつれて進行がんのリスクは上昇傾向であった (非飲酒者を基準に、アルコール摂取 0-150 g/週:ハザード比(HR) = 1.23, 95% 信頼区間 (CI) = 0.83-1.82; 150-300 g/週: HR = 1.51, 95% CI = 1.04-2.19; ≥ 300 g/週: HR = 1.41, 95% CI = 0.97-2.05, 傾向 p = 0.02)。自覚症状から発見されたがんについても、この正の関連は同様であった。喫煙は、全対象者では前立腺がんとの負の関連があったが、自覚症状により発見された患者に限局すると進行がんのリスク上昇と関連していた。		
結論： 禁酒・禁煙は進行性前立腺がんを予防するうえで重要な要素である可能性が示唆された。		